

植樹活動に参加する小学校児童の意識に関する研究 —栃木県日光市足尾町松木地区の体験植樹をケーススタディとして—

宇都宮大学 学生会員 ○櫻井 翔平 宇都宮大学 正会員 青木 達也 宇都宮大学 正会員 山岡 暁

1. 序論

(1) 研究の背景

近年、環境保全のための重要な活動の一つとして植樹活動が行われている。日本では植樹地において受け入れ側となる NPO や行政組織などがそれを主催している例がみられる。植樹活動への参加形態としては、学校団体による校外学習（野外活動）および修学旅行（文化的資源を見たり体験したりする学習）等の一環として参加・体験するものも存在している。

このように植樹活動は単なる環境保全活動として行う一方で、地域の観光事業の一環として実施されており、大きく二つに分ければ、「環境学習」と「観光」の側面を有している。特に少子高齢化が進んでいる地域においては、植樹活動の継続や地域の活性化には植樹の魅力を実際に体験することで知ってもらい、楽しんでもらうことが重要であると考えられる。

そこで本研究では植樹の楽しさに関する児童の意識の調査分析から植樹の楽しさに関与する要因を推測し、その影響度合いを明らかにすることを目的とした。

(2) 研究の対象

本研究の対象は、「栃木県日光市足尾町松木地区の体験植樹」である。「体験植樹」は「植樹活動」の一種であり、「植樹活動」とは、収穫等の生産的な目的は考慮せずに、記念的な目的や環境回復を目的として、木を植える活動を指す。こうした環境保護活動の役割に加えて、「植樹活動」は遠方から参加を募ることで開催地の自然や特色に触れてもらうことを目的とした観光活動の役割も併せ持っているという見方もある。このことから、本研究では植樹活動に関する要素について図1のような概念図を設定し、その上で環境保護活動と観光活動の双方に関わると考えられる「楽しさ」に着目し調査を行った。

2. 既往研究と本研究の位置づけ

本研究と関係する既往研究については、大きく分けて①観光の動機や満足度について研究したもの、②ボランティア活動またはそれに関係する活動（養成講座等）の参加者の意識について研究したもの、③ボランティア活動における運営側と参加者側の交流による活動参加意識への影響について研究したものの3点が挙げられ、それぞれの区分に属する既往研究は数多い。

本研究は環境保護活動と観光活動の双方に通ずる植樹参加者の意識調査を行う点で前例が無く、本研究の成果は植樹活動や地域の活性化を図る上で参考とするべき指標となると考えられる。

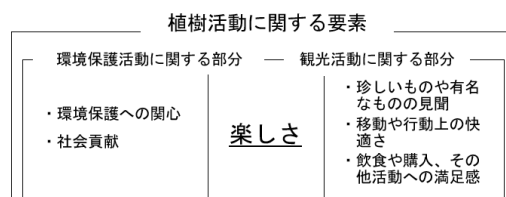


図1 本研究における「楽しさ」の位置づけ

3. 調査方法

本研究を行う上で行った調査とその目的を示したフローを図2に示す。

「足尾に緑を育てる会」へのインタビュー調査についてはオンラインにて令和3年9月10日に実施した。本調査は実際にスタッフとして活動される方の話を通して、同会の活動理念や活動内容への理解を深めるために実施した。

栃木県日光市松木地区の現地調査については、松木地区の歴史的背景や体験植樹の内容、参加者の活動中の雰囲気把握するために令和3年10月4日、10月25日、11月15日、11月20日に行った。また、この時に体験植樹時の様子を撮影し、アンケート調査の際に参加者に提示する振り返り資料としてまとめた。

アンケート調査については、現地調査時（令和3年10月4日）に体験植樹に参加した東京都の某小学校の児童107名を対象に、令和3年12月21日に実施した。アンケートに回答してもらう際、当時の感覚を出来るだけ振り返ってもらうために現地調査時に撮影した体験植樹時の様子を体験植樹の振り返り資料として提示した。アンケートは無記名式であり、設問内容と回答方法は表3に示す。

4. アンケート調査の集計と分析

アンケート調査で回収した回答全104件に対し、有効回答数103件を得た。これらについて、単純集計とクロス集計を行った。

まず、単純集計については、図3に示すように、足尾の「体験植樹」の中に「楽しさ」といったものが内在していることが分かった。

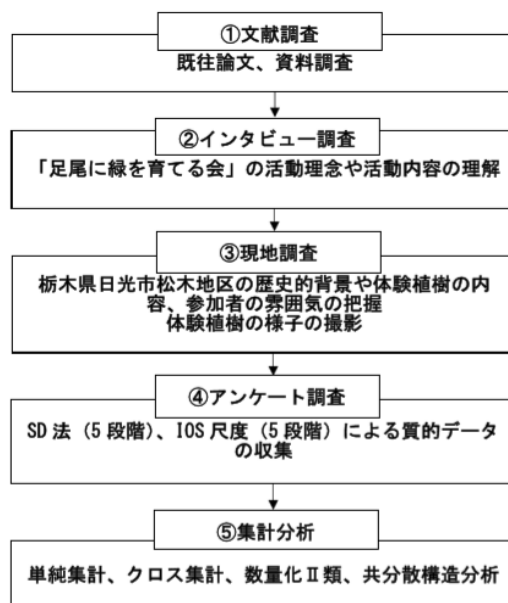


図2 調査分析の流れ

キーワード 植樹活動、環境学習、観光、単純集計、クロス集計、数量化Ⅱ類、共分散構造分析

連絡先 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学 TEL. 028-689-6223 E-mail: r189319@cc.utsunomiya-u.ac.jp

表 1 設問内容と回答方法

設問区分 A：個人属性		
A-1	あなたの性別についてお聞かせください。	選択回答 (2 択)
A-2	これまで、何かしらの環境保護活動に参加したことはありますか。	
設問区分 B：体験植樹全体を通して		
B-1	全体を通して、今回の体験植樹は楽しかったですか。	SD 法 (5 段階)
設問区分 C：社会貢献意識の向上		
C-1	活動を通して山と川の関係について理解できましたか。	SD 法 (5 段階)
C-2	10 月 4 日に足尾で行った植樹活動を通して、社会の役に立てたと思いますか。	
設問区分 D：興味・関心の高まり		
D-1	『国土交通省』の説明を聞いて、植樹によって足尾の緑が回復していることに興味がふくらみましたか。	SD 法 (5 段階)
D-2	足尾に緑を育てる会の植樹方法の説明を聞いて、植樹への意欲が高まりましたか。	
D-3	国が進めている事業について、もっと知りたいと思いましたか。	
D-4	今回自分たちが植えた木がどう育つのか気になりますか。	
設問区分 E：各プログラムに対する満足感		
E-1	国土交通省の事業説明の時間や内容はちょうど良かったですか。	SD 法 (5 段階)
E-2	土堀や苗植え、ネット取付などの植樹に必要な各種作業に満足出来ましたか。	
E-3	みんなと仲良く作業出来たと思いますか。	
E-4	記念プレートを取り付けたことで、活動に参加した実感が増えましたか。	
E-5	記念撮影によって、活動に参加して良かったと思いますか。	
E-6	ダムや山腹工のカードを貰って、うれしかったですか。	
設問区分 F：受け入れ側との交流から生まれる親密感		
F-1	体験植樹の時に、足尾に緑を育てる会の方々とどのくらい親しみやすさを感じましたか。	IOS 尺度 (5 段階)
F-2	体験植樹の時に、国土交通省の方々とどのくらい親しみやすさを感じましたか。	
F-3	体験植樹の時に、宇都宮大学の方々とどのくらい親しみやすさを感じましたか。	

次に、クロス集計の分析結果を図 4 と図 5、図 6、図 7 に示す。図 4 では男女差によって「楽しさ」に違いがないことが確認された。また、図 5 からは「過去において何かしらの環境保護活動に携わった児童」がより強く「楽しさ」を感じる傾向にあることが分かった。

図 6 からは「植樹方法の説明を受けた際の植樹意欲の高まり」が高いほど「楽しさ」を強く感じる傾向にあるものの、「とても親しみやすい」と回答した人は少なく、「親しみやすさ」は今後の体験植樹で改善すべき要素であると考えられる。

さらに表 1 の設問区分 C から F までの回答と「楽しさ」との関係を見ると、各設問でより肯定的な回答を出した児童ほど「楽しさ」を強く感じる傾向が見られた。

5. 今後の課題

本稿では、単純集計とクロス集計から、児童の意識に与える影響要因を考察した。引き続き、上記分析を進めるとともに、数量化Ⅱ類によって「楽しさ」への影響要因について考察を進めるとともに共分散構造分析を用いて、それらの因果関係を明らかにすることが課題となる。

謝辞：本研究においては、NPO 法人「足尾に緑を育てる会」、古河機械金属株式会社、国土交通省渡良瀬川河川事務所、東京都町田市立鶴間小学校からご協力を賜った。ここに記して謝意を示したい。

参考文献

- 1) 田中裕人, 大久保研治, 上岡美保「NPO 法人による緑化ボランティア養成研修の参加の要因に関する分析」農村生活研究, 第 48 巻第 2 号(2004)
- 2) 荒井俊行「青年期のボランティア活動への参加行動・不参加行動を規定する要因」早稲田大学大学院学位論文(2017)
- 3) 松永佳澄, 井手拓郎「歴史文化観光を目的とする日本

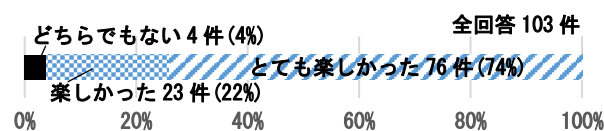


図 3 設問 B-1 の回答の単純集計結果

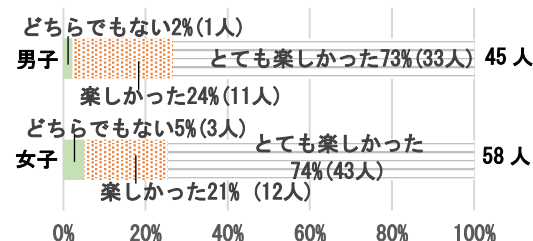


図 4 「性別」と「楽しさ」

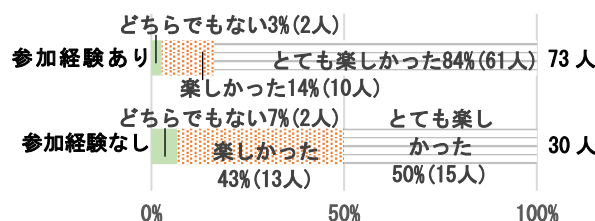


図 5 「環境保護活動の参加経験」と「楽しさ」

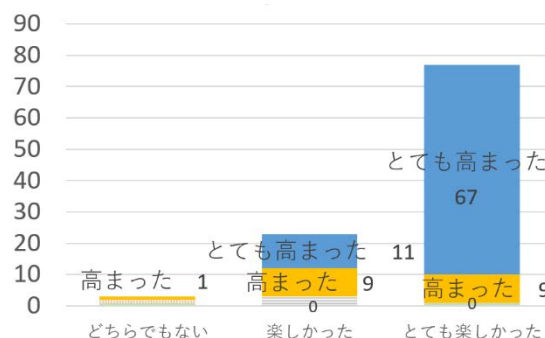


図 6 「植樹方法の説明による植樹意欲の高まり」と「楽しさ」



図 7 「国土交通省との親しみやすさ」と「楽しさ」

人国内観光者の観光動機」日本観光研究学会機関誌, Vol.30, No.2(2019)

- 4) 河田浩昭, 直井岳人「観光者満足度に関与しない観光地ロイヤリティの規定要因—先行研究のレビューを通じた整理—」観光科学研究=the international journal of tourism science(2019)